

新「三陸復興国立公園(仮称)」を軸にした地域の復興

【背景】

■ 三陸海岸の自然環境

- ・傑出した自然景観、海岸美、特徴的な地質
- ・渡り鳥等の野生生物の重要生息地
- ・東北地方太平洋岸には多くの自然公園が指定
- ・多くの観光客が訪れる(国立・国定:約909万人(H19))
- ・津波被害のおきやすい地形

■ 過去繰り返されてきた津波災害

■ 国内有数の水産業

- ・世界三大漁場
- ・地域の基幹産業である水産業



■ 復興に向けた具体的取組

1. 水産振興に役立つ里地・里海型の
新「三陸復興国立公園(仮称)」への再編成
2. 長距離歩道と復興のシンボルともなる森づくり
3. 被災を記録・継承するための学びの場とモニタリング

■ 新たな公園づくりのポイント

【従来のテーマ】: 三陸海岸の地形・地質、海岸美、野生生物

【新規のテーマ】

- 生物多様性と森・里・海のつながり
- 農林漁業との連携と地域との協働
- 防災との連携と津波経験の継承
- 世界ジオパーク
- 観光振興、エコツーリズム、地元雇用

水産業・防災と連携した
自然公園等による復興への貢献

【参考:これまでの取り組み】

- 陸中海岸国立公園の拡張と名称変更
 - ・国立・国定公園総点検事業 (H22.10月、環境省公表)
 - ・地元からも要望あり
 - ・H24年度中の指定を目指していた
- いわて三陸ジオパーク
 - ・岩手県が推進協議会をH23.2月設置
 - ・H24に日本、H27に世界ジオパーク登録を目指していた
- 漁業と連携したエコツアー
 - ・田野畑村を中心に推進されてきた
- 長距離歩道の整備
 - ・岩手県がH22より整備に向けて検討

生物多様性と森・里・海のつながり

～「森は海の恋人」活動をモデルとして～

<森と海のつながり = 森は海の恋人>

- ・森づくりにより、**豊かな森**を形成
- ・河川・里を通じて、栄養分が海に流れる
- ・栄養分をもとにプランクトン、藻場が生育
- ・魚類が増殖し、**豊かな海**を形成



豊かな森づくり

- ・植樹活動
- ・人工林の適切な管理
- ・里山の維持管理



生物多様性が豊かな森



落葉・腐葉土が
堆積した
豊かな森に成長

山から川への
栄養塩類等の
安定的な供給

川から海への
栄養塩類等の
供給

魚類の遡上

流域の住民の
森づくりへの参加

他地域の住民の
森づくりへの参加

プランクトン
の増殖

干潟・砂浜
藻場(海藻・海草)

海藻・海草
の生育

プランクトン
を餌とする
魚類の増殖

魚・海藻などが豊かな海



生物多様性が豊かな海

海岸長距離歩道



南北をつなぐ自然歩道を整備

- ◇沿岸の自然と生活・産業・文化をつなぐ
- ◇災害時には、住民や観光客の防災避難路として活用
- ◇津波の経験を語り継ぐ被災の記録・学びの場